

愛 媛 県 病 院 事 業 会 計



## 第 5 愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

### 1 概 要

#### (1) 事業の実施状況

病院事業会計に属する病院は、中央、今治、三島（平成22年3月31日廃止）、南宇和及び新居浜の5病院である。

#### ア 病院の利用状況

病院の利用状況は次表のとおり、入院患者延べ 486,301人、外来患者延べ 861,216人、計 1,347,517人となっており、前年度に比べて入院患者は延べ 1,509人増加、外来患者は延べ 2,147人減少している。

病床数は全体で 1,905床と前年度と同数であるが、病床利用率は 69.94%と 0.22ポイント上昇している。

病院名	入院・外来別	病床数	平成21年度 (A)			平成20年度 (B)			増減 ( ) (A) - (B)		
			延患者数	1日平均患者数	病床利用率	延患者数	1日平均患者数	病床利用率	延患者数	1日平均患者数	病床利用率
中央	入院	864	271,295	743.3	86.03	263,808	722.8	83.65	7,487	20.5	2.38
	外来		414,725	1,713.7		402,578	1,656.7		12,147	57.0	
	計		686,020	2,457.0		666,386	2,379.5		19,634	77.5	
今治	入院	320	80,874	221.6	69.24	92,557	253.6	79.24	11,683	32.0	10.00
	外来		163,350	675.0		164,311	676.2		961	1.2	
	計		244,224	896.6		256,868	929.8		12,644	33.2	
三島	入院	183	28,481	78.0	42.64	31,101	85.2	46.56	2,620	7.2	3.92
	外来		58,012	239.7		66,794	274.9		8,782	35.2	
	計		86,493	317.7		97,895	360.1		11,402	42.4	
南宇和	入院	199	43,942	120.4	60.50	41,218	112.9	56.75	2,724	7.5	3.75
	外来		114,799	474.4		119,212	490.6		4,413	16.2	
	計		158,741	594.8		160,430	603.5		1,689	8.7	
新居浜	入院	339	61,709	169.1	49.87	56,108	153.7	45.35	5,601	15.4	4.52
	外来		110,330	455.9		110,468	454.6		138	1.3	
	計		172,039	625.0		166,576	608.3		5,463	16.7	
合計	入院	1,905	486,301	1,332.3	69.94	484,792	1,328.2	69.72	1,509	4.1	0.22
	外来		861,216	3,558.7		863,363	3,552.9		2,147	5.8	
	計		1,347,517	4,891.0		1,348,155	4,881.1		638	9.9	

## イ 施設及び医療機器の整備状況

### (ア) 施設の整備状況

今治病院ではエネルギーコスト削減を図るため空調監視システムを更新したほか、今治、新居浜病院でアスベスト対策工事を行っている。

### (イ) 医療機器の整備状況

新型インフルエンザ対策として医療用テント及び人工呼吸器を整備したほか、中央病院及び今治病院に災害派遣医療チーム（DMAT）を配備するための災害派遣用医療機器の整備、中央病院へのドクターカーの導入、周産期医療の充実を図るための中央病院及び今治病院への保育器等の整備など、総額 7億 9,611万円で 300点の機器を整備している。

## ウ 経営健全化への取組状況

当年度からの5カ年計画である「第3次愛媛県立病院財政健全化計画」を平成 21年 8月に策定しており、これらの健全化方策を実施した場合、平成23年度には単年度黒字に転換する見込みとなっている。

当年度に実施された主な健全化方策は次のとおりであり、当年度純損失（30億円余）は本計画の見込みより約3億円改善されている。

(ア) 看護体制について、より充実した看護の実施とともに収入の確保を図るため、新居浜病院で平成 22年 3月から7対1看護体制を導入した。

(イ) 収入確保策として、個人医業未収金について、悪質な滞納者に対する法的措置による回収を実施した。

(ウ) 4疾病5事業への対応強化と患者に分かりやすい診療体制とするため、中央病院に、消化器病センター、がん治療センター、腎・糖尿病センターを設置した。

(エ) 三島病院のあり方を見直すこととし、同病院譲渡に係る基本協定書及び譲渡契約書を締結し、同病院は当年度末で廃止された。

## エ 中央病院建替えの取組状況

中央病院の建替えについては、PFI手法による新本院の建設や施設運営業務等が進められており、当年度は新本院の実施設計、「旧心と体の健康センター」の解体、立体駐車場の新築等が行われている。

## (2) 経営状況

経営状況は、医業収益に医業外収益と特別利益を加えた総収益が 36,215,242,779円、医業費用に医業外費用と特別損失を加えた総費用が 39,281,694,882円で、差引き 3,066,452,103円の純損失を生じており、総収支比率（総収益÷総費用×100%）は 92.19%となっている。

前年度と比較すると、純損失は 1,652,837,241円（116.92%）増加し、総収支比率も 3.94ポイント低下している。

また、累積欠損金は 23,070,722,506円となっており、前年度より 3,066,452,103円増加している。

## 2 予算及び決算の状況（決算報告書）

予算額に対する決算額及びその内容は、次のとおりである。

### (1) 収益的収入及び支出

#### 収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額に比べ 決算額の増減 ( )	執行率 (B) / (A)	備 考
	円	円	円	%	
病院事業収益	38,575,531,000	36,268,035,930	2,307,495,070	94.02	
医業収益	34,197,456,000	31,861,865,093	2,335,590,907	93.17	
医業外収益	4,340,069,000	4,325,504,132	14,564,868	99.66	
特別利益	38,006,000	80,666,705	42,660,705	212.25	

病院事業収益決算額は 36,268,035,930円で、予算額に比べて 2,307,495,070円の減収となっており、執行率は 94.02%となっている。

医業収益の主なものは、入院収益 22,805,188,086円、外来収益 8,046,343,500円である。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B) / (A)	備 考
	円	円	円	円	%	
<b>病 院 事 業 費</b>	40,189,503,000	38,867,321,746	0	1,322,181,254	96.71	
医 業 費 用	37,129,741,000	35,974,129,272	0	1,155,611,728	96.89	
医 業 外 費 用	1,069,498,000	923,151,762	0	146,346,238	86.32	
特 別 損 失	1,988,764,000	1,970,040,712	0	18,723,288	99.06	
予 備 費	1,500,000	0	0	1,500,000	0.00	

病院事業費決算額は 38,867,321,746円で、1,322,181,254円の不用額を生じており、執行率は 96.71%となっている。

医業費用の主なものは、給与費 19,985,857,391円、材料費 9,355,606,277円である。

医業費用の不用額の主なものは、給与費、材料費である。

特別損失は、三島病院の譲渡に伴う固定資産の除却によるものである。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額に比べ 決算額の増減( )	執行率 (B) / (A)	備 考
	円	円	円	%	
<b>資 本 的 収 入</b>	20,390,170,000	16,382,691,877	4,007,478,123	80.35	
企 業 債	6,646,200,000	6,634,100,000	12,100,000	99.82	
国 庫 補 助 金	404,225,000	383,862,557	20,362,443	94.96	
他 会 計 か ら の 借 入 金	11,300,000,000	7,700,000,000	3,600,000,000	68.14	
他 会 計 か ら の 負 担 金	1,946,789,000	1,573,333,525	373,455,475	80.82	
固 定 資 産 売 却 代 金	92,956,000	91,395,795	1,560,205	98.32	

資本的収入決算額は 16,382,691,877円で、予算額に比べて 4,007,478,123円の減収となっており、執行率は 80.35%となっている。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B)/(A)	備 考
	円	円	円	円	%	
<b>資 本 的 支 出</b>	19,290,770,000	15,221,213,912	372,678,000	3,696,878,088	78.90	
病院設備費	2,553,001,000	2,087,329,799	372,678,000	92,993,201	81.76	
企業債償還金	7,533,441,000	7,533,439,488	0	1,512	99.99	
他会計からの借入金償還金	9,200,000,000	5,600,000,000	0	3,600,000,000	60.87	
他会計からの負担金返還金	4,328,000	444,625	0	3,883,375	10.27	

資本的支出決算額は 15,221,213,912円で、372,678,000円を翌年度へ繰り越し、3,696,878,088円の不用額を生じており、執行率は78.90%となっている。

### 3 経営成績（損益計算書）

当年度の経営成績は別表1のとおりで、その内容は次のとおりである。

当年度純損失は 3,066,452,103円となっており、前年度に比べて 1,652,837,241円（116.92%）増加している。

#### (1) 医業損失

医業収益 31,819,935,629円に対し、医業費用は 35,714,710,123円で、差引き 3,894,774,494円の医業損失を生じており、前年度に比べて 546,818,690円（12.31%）減少している。

医業収益は、前年度に比べて 1,369,031,181円（4.50%）増加している。これは主として入院収益の増加によるものである。

医業費用は、前年度に比べて 822,212,491円（2.36%）増加している。これは主として給与費の増加によるものである。

#### (2) 経常損失

医業損失に医業外収益 4,314,640,445円を加え、医業外費用 1,596,944,047円を差し引いた経常損失は 1,177,078,096円で、前年度に比べて 236,536,766円（16.73%）減少している。

医業外収益は、前年度に比べて 319,027,564円 (6.88%) 減少している。これは主として一般会計からの負担金の減少によるものである。

医業外費用は、前年度に比べて 8,745,640円 (0.54%) 減少している。これは主として支払利息の減少によるものである。

(3) 当年度純損失

経常損失に特別利益 80,666,705円を加え、特別損失 1,970,040,712円を差し引いた当年度純損失は 3,066,452,103円となっており、前年度に比べて 1,652,837,241円 (116.92%) 増加している。

なお、病院別損益の状況は別表3のとおりである。

4 剰余金の状況 (剰余金計算書及び欠損金処理計算書)

当年度における欠損金の処理及び剰余金の増減については、次のとおりである。

(1) 欠損金

前年度繰越欠損金 20,004,270,403円に、当年度純損失 3,066,452,103円を加えた欠損金の当年度末残高は 23,070,722,506円となっている。この欠損金は、翌年度へ繰り越すことになっている。

(2) 資本剰余金

前年度末残高 8,060,568,559円に対し、次のとおり国庫補助金、県補助金、受贈財産評価額の発生・処分があり、当年度末残高は 9,534,913,426円となっている。

ア 国庫補助金

前年度末残高 808,172,221円に、暮らし・にぎわい再生事業補助金、BEMS導入支援事業費補助金 383,862,557円を加え、三島病院譲渡等による医療機器の除却に伴う取崩し 48,235,718円を差し引いた国庫補助金の当年度末残高は 1,143,799,060円となっている。

イ 県補助金

前年度末残高 6,531,002,111円に、建設改良費負担金、周産期医療強化事業費負担金等 1,573,333,525円を加え、三島病院譲渡等による固定資産の除却に伴う取崩し等 291,814,436円を差し引いた県補助金の当年度末残高は 7,812,521,200円となっている。

ウ 受贈財産評価額

前年度末残高 701,496,201円に、医療機器の管理換え、リース期間の終了した医療機器の受納等 11,825,620円を加え、「旧心と

体の健康センター」建物の除却、三島病院譲渡による医療機器の除却に伴う取崩し 154,626,681円を差し引いた受贈財産評価額の当年度末残高は 558,695,140円となっている。

## 5 財政状態（貸借対照表）

当年度末における財政状態は別表2のとおりで、その内容は次のとおりである。

資産は 29,575,691,617円で、前年度に比べて 1,132,275,540円（3.69%）減少している。

負債は 18,196,085,628円、資本は 11,379,605,989円となっており、前年度に比べて負債は 1,359,171,184円（8.07%）増加し、資本は 2,491,446,724円（17.96%）減少している。

### (1) 資 産

ア 固定資産は 22,835,385,408円で、資産合計に対する構成比率は 77.21%となっており、前年度に比べて 1,578,453,461円減少している。これは主として三島病院の譲渡に伴う有形固定資産の減少によるものである。

イ 流動資産は 6,074,768,796円で、資産合計に対する構成比率は 20.54%となっており、前年度に比べて 419,858,196円増加している。これは主として未収金の増加によるものである。

なお、未収金 5,609,711,622円のうち医業未収金は 5,192,109,713円で、その内容は保険者負担分 4,593,080,580円、個人負担分 599,029,133円となっており、個人負担分のうち過年度未収金は 383,042,596円となっている。

ウ 繰延勘定は 665,537,413円で、資産合計に対する構成比率は 2.25%となっており、前年度に比べて 26,319,725円増加している。これは控除対象外消費税額の増加によるものである。

### (2) 負 債

ア 固定負債は 11,998,450,380円で、負債資本合計に対する構成比率は 40.57%となっており、前年度に比べて 2,025,601,437円増加している。これは長期借入金の増加によるものである。

イ 流動負債は 6,197,635,248円で、負債資本合計に対する構成比率は 20.95%となっており、前年度に比べて 666,430,253円減少している。これは一時借入金の減少によるものである。

### (3) 資 本

ア 資本金は 24,915,415,069円で、負債資本合計に対する構成比率は 84.24%となっており、前年度に比べて 899,339,488円減少している。これは企業債の償還によるものである。

イ 剰余金の内訳は、資本剰余金 9,534,913,426円、欠損金 23,070,722,506円となっている。